



# 佐土原ロータリークラブ週報



ロータリーを  
祝おう

100年の歩み

会 長：林 厚 雄  
副 会 長：岩 切 正 司  
幹 事：藤 堂 孝 一

会 計：柳 田 光 寛  
会報委員長：宮 原 建 樹

2004-2005 年度 R I テーマ

第 852 回 平成 16 年 9 月 8 日 (水)

## 本日のプログラム

1. 点 鐘
2. 食 事 の 時 間
3. ロータリーソング  
「それでこそロータリー」
4. 四つのテストの唱和
5. 会 長 の 時 間
6. 幹 事 報 告
7. 委 員 会 報 告
8. 外 部 卓 話 鐘
9. 点 鐘

## 第 851 回の記録 9/1

☆会長の時間 会 長 林 厚 雄 君

皆様今晩は、今日は第 851 回の例会です

先日の台風 16 号は久々に勢力の強い台風でした。あちこちで大きな被害がでていますが、私の店も看板が落ちたり、倉庫のトタン屋根がはがれる被害ができました。

さて、今日の会長の時間は、ロータリーの歴史の、第 2 回目です。ハリスの 3 歳の頃から、少年時代の頃までの話を致します。

ボールの祖先は、1620 年メイフラワー号に乗ってイギリスを去り、アメリカのマサチューセッツに渡ってきて植民地を清教徒の団、までさかのぼると記してあります。

ボールが 3 歳の時、両親はこれまでの事業に失敗しました。この年の 7 月の夜、父ジョージは、ボールとその兄セシルを連れて、バーモント州のウオーリングフォードの父の生家に向かいました。

ウオーリングフォードの駅に着いたとき、出迎えた祖父の温い手でボールの小さな握りこぶしを強く包んでもらったことを、ボールは昨日のことのように思い出すと述べています。そして、この親子 3 人は、祖父母の暖かい歓迎を受けることになります。後日、ボールは『祖父母の家に着いた夜の神聖な思い出は、生涯忘れることはできない』と述べています。

さて、父は事業によく失敗しました。その後も父ジョージのために、祖父が数々援助しますので父は、困ったら祖父が助けてくれるだろうという依頼心が

つっていきます。祖父母の愛情に甘えて依頼心が高じた結果、事業にも身の入れ方が十分でなく結局失敗したようです。さらに、父ジョージは、善良な人物ではありませんが、文筆を趣味とし、また単純な日用品の発明にこりすぎたことと、母バメラが、裕福の家に育ったため家計の配慮に欠け、夫婦ともども小切手を乱発するという生活であったようです。

ボール兄弟は、ここに移って、この年の暮れから村の学校の幼稚部に通ってました。ところが、その後まもなくして兄セシルは、伯母のもとに引き取られて、ボール 1 人が祖父母のもとで育てられました。祖父母は高尚な理想を持つことを誇りにして、きちんとした生活態度を守っておりました。

ともあれ、ボールは、祖父母のいかにも敬謙なキリスト教信徒らしく、ふざけ話など一切しないで、自己げいに徹し、哲学心と自然科学がよく調和し、詩歌を楽しむ家庭に育ったのです。そうであったからこそボールは後日あのような高潔な人格者に成長したのでしょう。

少年時代のボールは、よその子と違って両親の愛情を十分受けられないという心持で、常に孤独感の中にいたのだらうと察せられます。いくら大事にされても、ボールの心のなかには何か満たされぬものがありました。人並みに親の愛情を受けられない、という欲求不満からでしょうか、いたずら好きの腕白少年として、何か事が起きれば、また、ボール達だろうと思われていたそうです。それでも聡明なボールは、野山をかけ廻りながらも、祖母に喜んでもらうため、ストロベリー、ブラックベリーなどの果実や溪流に釣りに行つては、鱒を多く獲ってお土産にする優しさがありました。

しかし、やがて、ボールの聡明さが反省を促し知的動機付けによって、高貴な人類愛の活動であるロータリーの奉仕活動として昇華したものであると言つてはいけないでしょうか。



ボール・ハリス 14歳の頃



ボールの父ジョージ・ハリス

例会場：石 崎 浜 荘 0985-73-1913 事務局：〒880-0211 宮崎郡佐土原町大字下田島 20614-29

例会日：毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 T E L : 0985-73-7170 F A X : 0985-73-7170

